

ワクチンの研究開発、供給体制の在り方に関する検討会(第8回)議事要旨(案)

日時 平成18年3月15日(水) 16時00分～18時00分

場所 九段会館

出席者

(委員) 神谷齊座長、堺 晴美、篠原恒夫、中村省三、東 雍、三村優美子、山西弘一、雪下國雄(敬称略)

(参考人) 内田康策((社)細菌製剤協会)、松本慎次(日本製薬団体連合会WG)

(事務局) 医薬食品局 関血液対策課長、植村血液対策課企画官他
医政局 二川経済課長

議題

1. 「ワクチン産業ビジョン」に向けて
2. その他

議事概要

1 議題1 「ワクチン産業ビジョン」に向けて

事務局より、資料Bに基づき、「ワクチン産業ビジョン」の骨子案について紹介され、内田参考人、松本参考人それぞれから資料Cに従って発表がなされた。これらの内容につき、以下の議論がなされた。これらの議論を踏まえて、次回までに「ワクチン産業ビジョンのたたき台」を事務局が作成することとされた。

(意見・提案)

- ① インフルエンザワクチンの地域的な偏在の対策として、卸が流動在庫を如何に持っていくかが重要であり、具体的な対応を卸側でも検討している。
- ② 危機的な流通については、地域的な対応が必要であり、都道府県単位とするかブロック単位として考えるか、具体的に卸側でも検討している。また、都道府県を超えた調整等の対応についても行政の関与を含めて検討が必要。
- ③ 全国一社では網羅できず、複数の卸の態勢が必要である。
- ④ インフルエンザワクチンの需給の安定化のために必要な一定の予備的な在庫については、流通機構の中である程度負担していく検討が必要ではないか。

- ⑤ ワクチン産業が活性化されてきたのは、インフルエンザワクチンの需要が増えたことにもよるが、接種率の向上が産業の維持としては重要。そのための普及、啓発、開発については、産業界としても使命である。
- ⑥ GAVIの例を挙げ、国際貢献と同時に日本のワクチンが世界に出て行きやすい仕組みを作っていくことが開発を進展させるモメントになるのではないか。一方で、世界市場で競争力のあるワクチンの開発がされるかの産業側の努力も必要である。
- ⑦ 日本のワクチンについても、途上国市場も含めて、世界市場に拡大するものもまだあるのではないか。
- ⑧ 国が産業ビジョンを持つことが産業には影響しており、それがはっきりしないとワクチン事業はリスクが大きい側面がある。一方で国の施策に頼り切ってきた産業が、各企業が戦略を立てていけるように、現在の医薬品産業に近づけていくことも必要ではないか。
- ⑨ 日本の企業の研究開発費は米国と比較しても少なく、複数の会社が同じワクチンの開発のために重複的に使用しているのはリソースの観点からも問題ではないか。
- ⑩ ワクチン産業の研究費は、企業の研究費の割合の問題ではなく、絶対額が小さいところが問題であり、必要な部分についてはオーファンドラッグ制度等のように国の助成が必要ではある。一方で、関係者が議論し、公的に日本のビジョンを出すことで厳しいが企業も投資をしていくようないい循環を作っていくことも必要ではないか。
- ⑪ ワクチン事業における少子高齢化の問題は重要であり、産官学の研究の連携等により、今後の成人、高齢者の市場にどのように対応していくかは検討課題である。
- ⑫ 従来の感染症の問題は終わったという一般消費者の認識があるのではないか。少子高齢化の中でも、小児に対するワクチンの啓発については全体的に意識が弱いのではないか。将来のワクチンのニーズや予防による社会的なインパクト等についても認識されるような啓発が必要ではないか。
- ⑬ ワクチンは公共性の高い事業であり、非営利的な事業を営利事業を行う企業が担っている状況にある。国民の健康を確保するための社会的な責任など、ビジネスのみで考えては不都合な問題があり、営利だけでは解決できない問題に対する取り組みとして本検討会はあるのではないか。利潤を目的とするというよりは、そのような社会的な責任を果たせるワクチンの事業を維持するための収益について考える場として検討会を捉えるべきではないか。

- ⑭ ワクチン事業及び開発研究は、国の関与の下で、関係する官・民間、民・民間、大学等が協力して取り組まなければならないのではないか。
- ⑮ 外国のワクチンを導入する際に、グローバルスタンダードがあればよいという意見もあるが、むしろ、現実にはグローバルスタンダードというものがあるわけではなく、オープンな議論が必要ではないか。
- ⑯ ビジョンにおいては、一步一步先に進むことを期待し、関係者が具体的にできること、できそうだと思うことが書かれているような実施可能性のあるものとするべきではないか。実施において役に立つような方向性をまとめたアクションプランを事務局で作成し、それを実現するためのフォローアップの仕組みについても議論が必要ではないか。

2 議題2 その他について

次回検討会は、事務局が作成する「ワクチン産業ビジョンたたき台」を基に審議をお願いすることとし、4月下旬に開催予定とすることとし、5月を目途に検討会のご意見に基づき、「ワクチン産業ビジョン(案)」をとりまとめる予定とする。次回の日程は追って調整することとされた。